

医薬理工学環の三つのポリシー (博士後期課程)

<p>大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>医薬理工学環は、医学、薬学、理学及び工学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度専門職業人又は研究者としての人材を育成することを目的とする。</p>
---	---

<p>学環の養成する人材像</p> <p>創薬・製剤、和漢医薬学、脳・神経科学研究、ヘルスケア機器・サービスの4つの分野を中核として、「人」と「地」の健康に貢献する次世代の科学・技術の開拓と社会の発展を担う人材</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】</p> <p>医薬理工学環は、医学、薬学、理学及び工学分野の学術の理論、技術及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、さらにこれら分野間の連携、融合により人との健康文化の進展に寄与することを目的としている。</p> <p>この目的に基づいて、医学、薬学、理学及び工学における普遍的知識・技能、さらに他の教育研究分野と幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出す能力を身に付け、医薬理工学環が示す学修成果を上げた者に博士の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】</p> <p>医薬理工学環では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示す「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」の能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。授業は講義・演習・実習の様々な方法・形態等により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。</p> <p>【教育課程実施方針】</p> <p>3年間の講義・演習・実習によるカリキュラムを実施する。講義は、大学院共通科目、学環共通科目を履修するほか、各プログラムが実施するものを、学生が主体的に選択できるものとする。具体的には次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基盤的能力を身に付けるため、各プログラム専門科目に医学、薬学、理学及び工学関連領域に係る特論(講義)科目、演習科目及び実習科目を設定する。 ・専門的学識を身に付けるため、各プログラム専門科目に特別演習科目及び特別研究科目を設定する。なお、これらは研究室等で実施する。 ・倫理観については、特別研究等の研究を進める中で、研究活動に関して守るべき作法についての知識や技術を実践的に修得する。 ・創造力を身に付けるため、大学院共通科目、学環共通科目及び特別研究科目を設定する。 <p>各授業科目の評価は各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p>	<p>【入学受入れの方針】</p> <p>医薬理工学環は、本学環の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、創薬・製剤工学、応用和漢医薬学、認知・情動脳科学またはメディカルデザインの研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、人と地の健康文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。</p> <p>そのため入学受入れの基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供する。</p> <p>【入学受入れの基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学受入れを実施する。各プログラムとも一般入試、外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>入学者の選抜は、プログラム毎に小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書(成績)により、大学院博士前期(修士)課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p>【学修成果の到達目標】</p> <p>【学修成果】</p> <p>研究遂行に必要な医学、薬学、理学及び工学関連領域に係る幅広い豊かな学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>特論(講義)科目、演習科目及び実習科目等の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p> <p>【学修内容】</p> <p>医学、薬学、理学及び工学領域を含む、博士として身に付けるべき幅広い知識の修得のために、特論(講義)科目、演習科目及び実習科目等を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習及び実習等により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>【求める資質・能力】</p> <p>大学院博士前期(修士)課程修了レベルの基礎知識及び語学力を身に付けている。</p> <p>医学、薬学、理学及び工学関連領域に係る幅広い豊かな知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p>【学修成果】</p> <p>医学、薬学、理学及び工学関連領域の発展に寄与する自立して研究活動を行う教育研究者、高度に専門的な業務に従事する高度専門職業人として必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、技術、態度を身に付けている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>特別演習科目及び特別研究科目の単位を修得すること。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医学、薬学、理学及び工学関連領域の高度専門職業人又は教育研究者として必要な高度の専門知識、技術を修得するために、プログラム専門科目の特別演習科目・特別研究科目を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>特別演習科目では、各分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p> <p>融合型・分野横断的教育を目的として、分野を横断した他の研究室での実験・実習指導や他分野の教員を副指導教員とするシステムを導入する。</p> <p>特別研究科目では、各分野における背景に基づいて設定された研究課題に取り組みながら、専門知識や技術について実践的に指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>特別演習科目・特別研究科目では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>【求める資質・能力】</p> <p>高度の専門知識、技術の修得のために必要な基礎知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>【学修成果】</p> <p>高度専門職業人又は教育研究者として活動する上で必要な研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>研究倫理に関する規範意識を身に付けていること。</p> <p>特別研究科目の単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>高度専門職業人又は教育研究者として活動する上で必要な研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>特別研究科目を中心に主指導教員、副指導教員等から研究倫理の規範意識や人間尊重について指導を受ける。</p> <p>また博士前期課程で大学院共通科目「研究倫理」を履修していない場合は、講義及びe-ラーニング形式により必ず学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>【求める資質・能力】</p> <p>大学院博士前期(修士)課程修了程度の倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>【学修成果】</p> <p>豊かな専門知識、高度の技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、医学、薬学、理学及び工学関連領域の諸課題を解決するための豊かな学識、並びに研究成果やその価値を説明、議論できる高度の能力を身に付け、自らが新たな知を創造し、その知から更なる価値を生み出す能力を身に付けている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>博士論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>創造性の高い研究を遂行するための豊かな学識及び研究価値を説明、議論できる高度の能力の修得のために大学院共通科目及び学環共通科目、特別研究科目を実施し、その成果をまとめて博士論文を作成するとともに、博士學位論文発表会にて発表を行う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を指導、添削を受け、博士論文を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>博士學位論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく博士論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>【求める資質・能力】</p> <p>医学、薬学、理学及び工学関連領域の研究課題に取り組み、それを解決して社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>